



日本音楽教育学会ニュースレター 第82号

目次

1	第51回大会オンライン大会を終えて.....	今川 恭子	2
		齊藤 忠彦	2
2	学会からのお知らせ		
1.	学会業務の電子化について.....	木村 充子	3
2.	理事の被選挙権に関わる細則改正について.....	嶋田 由美	6
3	委員会からのお知らせ		
1.	編集委員会からのお知らせ.....	小川 容子	7
2.	APSMER 2021 TOKYOのご案内.....	水戸 博道	8
4	音楽教育の窓		
1.	〈連載〉音楽・教育・学校 (25) 耳の痛い話—音楽教育50年をふり返って—.....	福井 昭史	9
2.	コロナ禍に提案した新しい音楽鑑賞の可能性.....	瀧川 淳	10
3.	教員養成大学における前期のオンライン授業報告と今後の課題.....	野本由紀夫	11
5	会員の声		
1.	第51回大会に参加して.....	今井 由喜	12
		鹿倉 由衣	12
		長山 弘	12
		西村 幸高	13
		山本 耕平	13
2.	子供たちの声に勇気付けられて.....	佐藤 恭子	14
6	会員の新刊・近刊等紹介.....		15
7	報告		
1.	2020年度 日本音楽教育学会 総会.....		16
2.	2020年度 日本音楽教育学会 第3回常任理事会.....		20
3.	2020年度 日本音楽教育学会 第2回理事会.....		21
8	事務局より.....		24

[編集後記]

1 第51回大会オンライン大会を終えて

大会実行委員会委員長 今川 恭子

日本音楽教育学会第 51 回大会オンライン大会は、お陰様で盛況のうちに終えることができました。ご参加の皆様、ご関係の皆様にあらためて心よりお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、本大会は Zoom を用いたオンライン開催となりました。前例のない開催方法にもかかわらず、研究発表は 79 件（申込 81 件）、参加者は 325 名と、当初の予想をはるかに上回るたくさんの方々のご参加を得ました。この状況下だからこそその熱い思いとともにさまざまな場所からオンライン上の「今・ここ」に集った参加者一人ひとりによって、「ニュー・ボーダーレス」をめざす今大会テーマは実現されたと感じております。「新しい生活様式」「ニューノーマル」といった言葉のもとで何もかもがオンラインで可能になる、と思っておられる方はいないでしょう。今大会での研究交流、とりわけ5月に立ち上げた緊急プロジェクトチームによる企画と常任理事會企画のプロジェクト研究を通して、「変えてはならない大切なものを見きわめて保ち続ける知恵をもつこと」と「従来暗黙裡に引いていた境界線を越えて新たな可能性を見出すこと」とを皆様と共有できていたならば、実行委員一同この上なく幸せに思います。

最後になりましたが、本大会の実現に向けて急遽結成した大会実行委員会の皆様に心からのお礼を申し上げます。とりわけ技術面での計画から実行まで殆ど一手に引き受けてくださった信州大学オンラインチーム、そして大会ホームページを作成してくださったホームページ担当チームの皆様、本当にありがとうございました。

大会実行委員会副委員長 齊藤 忠彦

新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度の全国大会はオンラインで開催することが決まり、オンライン本部を信州大学で担当させていただくことになりました。幸いにもオンラインチームに新進気鋭のメンバーが揃い、チーム一丸となって準備を進めることができました。特に、専用ホームページの企画、制作、管理を一手に引き受けていただいた長山弘会員、塚原健太会員には Web 構築のプロ並みの力を発揮していただき、森下孟会員、桐原礼会員には Zoom 等のオンライン関係の環境を万全にさせていただきました。大会前日に「信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター」の一室にオンライン本部を設け、十数台のノートパソコン及び大型モニター等の機材をセッティングしました。感染症対策を徹底した上で、学生スタッフが入室し、夕刻から Zoom 接続チェックを行いました。おかげさまで前日、当日ともに大きなトラブルはなく、口頭発表やプロジェクト研究を予定通りに行うことができました。総会まで無事に終了し、例年の大会ですと懇親会場へという流れになるのですが、それが実現できなかったことは残念なことでした。

「国際的な学会で著名な方の研究発表を聞くことは大切なのですが、人間の発想というのは、仲間たちが集まり雑談したり、懇親会等で語り合ったりする中で生まれるものがある」という話を聞いたことがあります。次年度の大会は京都で開催予定です。古都の厳かな空気感を味わいつつ、仲間たちと語り合える大会を楽しみにしたいと思います。最後になりますが、オンライン大会にお力添えをいただきました全ての皆様、オンライン大会にご参加いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

2 学会からのお知らせ

1. 学会業務の電子化について

—メールアドレス登録のお願いと「会員専用ページ (マイページ)」のご案内—

事務局長 木村 充子

コロナ禍において世の中の電子化が急速に進んでいます。本学会でも、第 51 回大会をオンライン実施としたことをはじめとして、学会の安定的な活動を持続・発展させていくための努力を続けているところですが、中でも昨年度より取り組んでいるのが会員情報管理システムの改善です。昨年9月に、「会員専用ページ (マイページ)」(以下「マイページ」) を始動させました。「マイページ」を活用することにより、会員の利便性の向上及び事務局業務のスリム化を目指していきたいと考えています。皆様のご理解とご協力をいただきたく、その概要を改めてお知らせいたします。

学会活動にかかわる主な変更点

(1) 会員情報の自己管理

会員情報は、会員の皆様の学会活動にとって基本的かつ非常に重要な情報です。学会からの連絡や送付物を滞りなくお届けするためにも、変更があった場合には速やかな更新が必要です。これまでは事務局の手作業で管理してまいりましたが、すでにお伝えしております通り、昨年9月より、会員情報の更新(変更)を会員ご自身で「マイページ」より随時行っていただけるようになりました。学会誌、会報、選挙のお知らせ、大会プログラムの送付や地区例会のお知らせ等、学会からのお知らせを確実にお届けできるように、ご所属等の変更、住所やメールアドレス等の連絡先の変更、お名前の変更、会員種別の変更がありましたら、速やかな情報の更新をどうぞよろしくお願いいたします。なお、事務局へのメールや会費振込票での変更手続きは一切受け付けていませんのでご注意ください。

(2) 会費納入状況の確認

会費の納入状況を「マイページ」でご確認いただけます。納入されますと、「会費納入記録」欄に納入年月日が表示されます。大会発表登録の際には、当該年度までの会費を5月末日までに納入済みであることを「マイページ」にてご自身で確認の上、発表登録をしていただくようお願いいたします。

(3) 学会誌への投稿

学会誌の論文等についても9月より電子投稿がスタートし、「マイページ」から投稿ができるようになりました。12月からは郵送による投稿は受け付けず、電子投稿に一本化されていますのでご注意ください。📎「電子投稿マニュアル」<http://xn--6oqq31akwh8pa94cx0fi79cv40b.com/pdf/article/manual.pdf>

(4) ニュースレターの閲覧

「マイページ」では、ニュースレター(PDF版)の閲覧・入手も可能です。現在、学会ウェブサイト上には個人情報等の一部記事を削除したものを掲載していますが、「マイページ」では紙媒体のニュースレターと同一のものを閲覧・入手することができます(現在、74号から81号まで掲載中)。なお、来年度からは、年2回(8月、3月)はこれまで通り紙媒体でお届けし、2回(5月、12月発行)は「マイページ」に掲載することとし、紙媒体を廃止することが決定しております。

メールアドレス登録のお願い

メールアドレスを学会に登録されていない方は「マイページ」に入ることができません。また、今後は、事務局へのお問い合わせや事務局からのご連絡を、電話やFaxではなくEメールに一本化していく予定です。メールアドレスをまだ登録されていない方、変更があったことを連絡いただいていない方は、今後の学会活動に支障をきたしますので、早急に事務局宛にメールでお知らせください。

事務局E-mail：(半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

「マイページ」利用方法のご案内

(1) ブラウザ (Internet Explorer, Firefox など) を起動して、「日本音楽教育学会」<http://日本音楽教育学会.com> のウェブサイトに接続し **会員専用ページ(マイページ)** をクリックしてください。



(2) 「会員専用ページ」が開いたら、ログイン画面の指示に従って必要事項を記入してください。

1. **会員番号**は、半角英数記号で入力してください。A あるいは B から始まる番号です。必ず冒頭の A または B から入力してください。数字のみ入力するとエラーになってしまいます。
2. **氏名(カナ)** は、全角カタカナで入力してください。
3. **登録メールアドレス**は、半角英数記号で入力してください。
4. **ログイン** をクリックしてください。



「日本音楽教育学会 会員専用ページ」

「日本音楽教育学会 会員専用ページ」(マイページ)のログイン画面です。

ログインが最後まで完了すると、学会「会員名簿」の登録情報の確認と変更ができます。
まず、ご本人の確認のため、会員番号、カナの氏名、登録メールアドレスを入力してログインしてください。
3つが一致した場合だけログインに成功し、次に進むための「ワンタイムパスワード」が発行されます。

1. 会員番号 : (例) A0000, B-00 (学生) ※半角英数記号で入力ください。
2. 氏名(カナ) : (例) ヒビキ ハナコ ※全角カタカナで、入れてください。
3. 登録メールアドレス: (例) Abcdefg@gmail.com
※学会に登録している(事務局から連絡に送信されてくる)メールアドレスを半角英数記号で入力ください。
注) メールアドレスを新しく変更する場合も、ここでは現在登録中のメールアドレスを入力ください。

- (3) 「ワンタイムパスワード入力画面」でパスワードを入力してください。



「日本音楽教育学会 会員専用ページ」

「日本音楽教育学会 会員専用ページ」(マイページ)の「ワンタイムパスワード」入力画面です。

お名前が、ご本人であることをご確認ください。

会員番号: A

お名前:

先ほど 様の登録メールアドレス (To:) に
「ワンタイムパスワード」(6桁)を送信しました。

注) コンピュータ (from:jmes-admin@jnk4.info) からの自動送付です。

時折、迷惑メールに紛れ込んでいることもありますので、お探してください。

内容をご確認の上、

- ▼ メールに記載の「パスワード」(6桁)を以下のパスワード欄に入力ください。

様の「会員登録 確認・更新」ページに移動します。

パスワード: パスワード入力

【重要】

「ワンタイムパスワード」がわからないと「会員登録 確認・更新」ページには進めません。

1. **ログイン** をクリックすると、あなたのメールアドレス宛に、学会事務局からパスワードが送信されます。
 2. 送信されたパスワードを入力するとあなたの専用ページの画面に入ることができます。
- (4) 会費の納入状況を確認する場合は **登録情報の確認** をクリックしてください。
過去5年分の納入状況が「会費納入記録」欄に表示されます。

(5) 会員情報を変更する場合は **登録情報の変更** をクリックしてください。

The screenshot shows a member's dedicated page for the Japan Music Education Association (JNES). The page title is 「日本音楽教育学会 〇〇〇〇様 専用ページ」. The user's name is 〇〇〇〇様. The page is divided into several sections:

- 登録情報** (Registration Information):
 - 登録情報の確認** (Check Registration Information): 学会名簿に登録されている個人情報の一覧を表示します。
 - 登録情報の変更** (Edit Registration Information): 登録されている個人情報の変更を行います。 (This button is circled in red in the image)
- ニュース・レター (News Letter)**:
 - 最新のニュースレター** (Latest Newsletter): 最新のニュースレターが、pdfで閲覧・入手できます。
- 論文の投稿** (Paper Submission):
 - 新規論文は、wordのテンプレートをもとに作成してください。 **テンプレートの入手** (Template Download)
 - 次の新規投稿の締め切り日は、2020/08/15です。
 - 新規の投稿** (New Submission): 新規に論文を投稿する場合は、pdfファイルを作成してから、クリックしてください。

※会員情報の登録・変更の際して

- ・住所は必ず番地まで記入してください。郵便番号からの自動検索入力のみでは番地前までしか表記されません。番地まで記入されていないと郵便物をお送りすることができません。
- ・会員情報を変更される場合、すべての項目について正しく変更されていることをご確認ください。所属先が変更されていても所属先住所が変更されていない場合があります。

2. 理事の被選挙権に関わる細則改正について

総務担当理事 嶋田 由美

第24期理事会では、前期の将来構想ワーキンググループの「将来にわたる発展的で安定的な学会運営の基盤をつくることを目的として」検討された諸課題のうち、理事選出における被選挙者年齢の検討とこれに関する規定案の作成を中心に検討を進めてまいりました。近接領域の諸学会の対応状況なども参考にしながら、この間、3回の常任理事会と2回の理事会での審議を経て、大会時の総会に「理事の被選挙権に関わる細則改正について」として、総会報告にある新旧対照表を付して改正案を提出し、了承をいただきましたのでご報告します。

今回、細則第五章第17条に付加された下線部 (p.19 参照) の最初の部分については事務局の記録により自動的に被選挙権を有しない会員が特定できますが、「理事選挙が行われる年度内に満70歳以上になる会員は、被選挙権者であることを辞退することができる」に関しては、現在のところ会員からのお申し出によることとなります。その申し出をいただく時期や方法については、今少し検討が必要ですが、来年度が選挙の年にあたることにもより、早急に検討を進め、決定次第、ホームページ等で周知する予定でありますので皆さまも情報にご留意くださるようお願いいたします。

3 委員会からのお知らせ

1. 編集委員会からのお知らせ

編集委員長 小川 容子

第2回編集委員会（8月2日 Teams オンライン会議）、第3回編集委員会（10月11日 Zoom オンライン会議）では投稿原稿の採否について審議を行い、次のように決定しました。『音楽教育学』に投稿され、再査読となっていた研究論文1本、研究報告2本が採択されました。また、『音楽教育学』への新規投稿の研究論文6本については再査読2本、4本が不採択となりました。同じく新規投稿の研究報告1本は不採択、書評1本は掲載可となりました。

12月1日から電子投稿（オンライン投稿）が全面实施となります！

12月1日からの電子投稿全面实施に向け、現在、学会ホームページのトップ画面、『音楽教育学』の投稿規定、『音楽教育実践ジャーナル』の投稿規定、執筆の手引きなどを修正しております。これまでの「郵送による投稿」で必要だった投稿原稿のコピー等は、必要なくなります。詳しくは、学会ホームページをご参照ください。

『音楽教育実践ジャーナル』vol.19 通巻32号(2021年12月下旬発行)の特集テーマ

特集テーマは、「新型コロナウイルス問題と音楽教育」となりました。多くの原稿の応募をお待ちしております。また、テーマにかかわらず、自由投稿も歓迎いたします。原稿の締切は2021年2月13日となります。

『音楽教育学』投稿締切

『音楽教育学』の次の締切は2021年2月15日となっております。できるだけ多くの方の投稿をお待ちしております。

広報委員会からニュースレターへの原稿募集

『音楽教育研究ハンドブック』 ロコミ&活用アイデア募集！

日本音楽教育学会創立50周年記念出版のハンドブックが発行され1年が経ちました。「こんなところが役に立った」「ここが使える」といった感想や「大学の演習等でこんな使い方をしている」等々、情報をお待ちしています。新年度を前にした3月のニュースレターで、ハンドブック活用アイデアを共有できたらと思います。

📍情報はこちらへ

(半角) onkyouiku.kouhou@gmail.com

件名:「ハンドブック情報」で1月末までにお送りください。

※受け取ったら必ず返信いたします。万一返信がない場合は、お手数ですが事務局にご一報ください。



2. APSMER 2021 TOKYOのご案内

APSMER 2021 大会実行委員会委員長 水戸 博道

2021年9月18、19日にThe 13th Asia-Pacific Symposium for Music Education Research (APSMER)が東京(明治学院大学白金キャンパス)にて開催されます。音楽教育の国際会議が日本で開催されるのは、2001年の第3回 APSMER (名古屋大会)以来で、本当に久しぶりのこととなります。東京大会の開催準備は2018年から始まり、2019年のマカオ大会で正式に東京での開催を宣言しました。しかし、新型コロナの蔓延、それによるオリンピックの延期などから、日程や開催方法が紆余曲折し、会員の皆様にはなかなか会議内容の詳細をお知らせすることができませんでした。その後、新型コロナウイルス感染の改善の兆しはなかなか見えてきませんが、現時点では、なんとか対面会議を開催すべく実行委員が一丸となって準備を進めております。すでに call for paper はスタートしており、申込締切は2021年2月末日となります！会員の皆様の意欲的な研究を世界に発信するまたとない機会です。多くの方々の発表申込をお待ちしております。

まずは、<https://sites.google.com/view/apsmer2021tokyo/home> を開いてみてください。
「APSMER 2021」でも検索可能です。

APSMER は、Asia-Pacific Symposium for Music Education Research の略称で、アジア・パシフィック地域の音楽教育研究者、大学院生、教員たちが2年に1回集まり、研究討議を行う場を提供してきました。ISME (The International Society for Music Education) のアジア・パシフィック地域の地区大会でもあります。このシンポジウムの目的は、アジア・パシフィック地域の音楽教育者が音楽教育に関する知識と経験を共有する機会をもち、また、音楽教育の理論と実践を発展させるために、相互に協働したりネットワークを広げたりしていくことです。

だれでも参加できるの？

参加費さえお支払いいただければ、どなたでも参加いただけます。学術的な研究成果の発表だけでなく、音楽教育の実践にかかわるワークショップやシンポジウムも多数行われますので、研究者のみならず、学校教員や音楽教室の講師など、音楽教育実践者にとっても大きな収穫を得ることができるシンポジウムです。特に APSMER 2021 は日本音楽教育学会主催のシンポジウムでもあります。日本音楽教育学会会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

どうやったら発表できるの？

発表の形態は、口頭発表、ポスター発表、パネルディスカッション、ワークショップの4通りになります。発表希望の場合には、まず上記ウェブサイトの中の「Call for Papers」をクリックしてみてください。要旨の書き方が示されています。その内容を踏まえて、英語で300~400語の要旨を作成してください。できあがったら、<https://sec.tobutoptours.co.jp/web/evt/2021apsmer/> からお申込をお願いします。締切は2021年2月末日です。その後、査読結果が2021年4月15日までに届きます。査読に通ればプレゼンターとして参加することができます。

APSMER 2021 は、口頭発表だけでなくポスター発表含め全ての発表形態で、フルペーパーのプロシーディングスに投稿できます。そして、それらはすべて査読付き論文になります。国際学会の査読付き論文1本です！奮ってご参加ください！

4 音楽教育の窓

〈連載〉音楽・教育・学校 (25)

1. 耳の痛い話—音楽教育 50 年をふり返って—

福井 昭史 (長崎女子短期大学)

音楽教育に携わって 50 年近く、その間の音楽科教育は、授業時数と学習内容の削減の歴史でした。戦後の学習指導要領に基づく教育も 70 年余りとなり、改訂の度に新しい流行りのキーワードが示され、それに敏感に反応してきたのが学会を含む音楽教育界でした。1980 年前後に日本音楽による教育を主張した小泉文夫氏の「おたまじゃくし無用論」は今では知る人も少なくなりました。90 年代に隆盛し授業の様相を一変させた「創造的な音楽学習」は近年みられなくなりました。2000 年代の「総合的な学習」では音楽の取り組みもみられました。「言語活動」の強調は、歌う、聴くなどの音楽活動の量の減少をもたらしたように感じます。新しい教育動向や学習方法への対応は必要ですが、過剰な反応や行き過ぎによって弊害をもたらされたこともあったようです。

さて「9 年間も授業をしているのに楽譜ひとつ読めない」と音楽教育を揶揄する人がいるそうです。日ごろ接している学生達を見ると、歌や楽器の演奏は上手になりましたが、楽譜が読めない、書けない、音符や記号の知識がないという者が少なくないのも確かです。学習指導要領は改訂を重ねてきましたが、内容が一新されるような大きな変化は音楽科には見られず、読譜や記譜、音符や記号に関する内容も一貫して示されてきました。小学校では、第 1 学年に「階名で模唱したり暗唱したりする」、高学年に「ハ長調、イ短調の楽譜を見て歌う」と、中学校では「調号 1 つ程度までの楽譜の視唱や視奏に慣れる」と示されていますが、学生達の実態からは、これらの内容が十分に達成されていないことが推測できます。その要因の一つは、授業で上手に歌えた、演奏できたなど、表現活動の良否を重視するという音楽科の傾向にあるといえます。演奏のために技能や表現力は欠かせませんが、楽譜が読めなくても、聴唱や聴奏によって表現ができてしまうので、時間や労力を必要とする読譜や記譜が疎かにされているようです。素晴らしい演奏ができれば、教員も児童生徒も満足するでしょうが、それだけでよいのか、教師や友人の支援を受けて教室内で上手にできたとしても、それが真の学力といえるのかを再考する時期に来ているのかもしれない。

昔から「音楽教育校門を出ず」と言われてきました。まず思い当たるのは、学校で歌われている歌と世間との乖離です。教科書に掲載されている楽曲は、その多くが教材として創作されたもので、地域や世代を超えて歌い継がれるといった性格のものではありません。楽曲の教材性、教育的な価値は重要ですが、文化的、芸術的な価値を忘れてはなりません。これについてもう一つの視点は、校門を出てからも使える音楽の学力とは何か、先述の読譜力や記譜力もその一つでしょうが、それらが確実に一人一人の身に付いているかということです。教室を離れても、一人になっても自立した音楽活動ができる学力の質と量、それを育成するための指導の在り方を考えてみる必要があります。

2020 年は戦後 75 年にあたり、西洋音楽に基づく音楽教育の出発点となった明治の学制発布 (1972 年) から間もなく 150 年になろうとしています。唱歌に始まる音楽科の教材の大半は、ヨナ抜きを含む長短音階が占め、機能和声と五線譜による音楽となりました。伝統や文化の尊重、グローバル化によって、五線譜で表せない日本の音楽や諸外国の民族音楽の教材化が求められています。しかし、それらを理解するには西洋音楽を基盤とする知識が不可欠であることは言うまでもありません。

今年は新型コロナウイルスが流行し、歌えない、オンライン授業など、音楽科もさまざまな課題に直面しています。これからも何が起るかわかりませんが、冷静に対処したいものです。

2. コロナ禍に提案した新しい音楽鑑賞の可能性

瀧川 淳（熊本大学）

今年6月、熊本市内の小中学校が再開したとはいえ、新型コロナウイルス感染症の予防対策は全国的にまだ暗中模索の時期であった。周知の通り、学校での音楽的な活動は大きな制限を強いられていた。また芸術家たちやその活動を支える公共ホールも事業を中止もしくは延期せざるを得ず、今後が見通せない状況に置かれていた。そんな中、公益財団法人熊本県立劇場（以下、県劇）はいち早く新たな企画を立案。それが「ケンゲキオンラインスクール ～音楽を聴こう知ろう」である。筆者は企画立案段階から関わりプログラム監修を行った。企画の詳細については下記文献¹⁾をご参照いただくと、本稿では簡単な概略を紹介した後、このケンゲキオンラインスクールの教育効果と音楽鑑賞への可能性について述べたい。

本プログラムは、プロの演奏を県劇のコンサートホールから熊本市内の小学校にオンラインでライブ配信するものである。演奏はホールに設置した4台のカメラから YouTube Live で教室へ配信し、教室の児童たちの様子は Zoom で県劇にいる演奏者へ配信した。プログラムは音楽科の指導計画に位置付けやすいよう教科書に掲載されている鑑賞教材を配置し、その他の楽曲もそれに関連するものを選曲している。また単に演奏を聴くだけではなく、楽曲の理解が深められるよう司会（筆者）を置き、楽曲の聴きどころや演奏者へのインタビューを挟み、必要な場合には曲の部分部分を取り出して鑑賞した。さらに学校側へはプログラムのねらいや進行表、また簡単な楽曲解説を事前に配布した。これによって各校の先生方の裁量で事前事後学習やプリントの作成が可能になった。

鑑賞した児童や先生方からは「大型テレビを通して鑑賞する演奏はホールの客席に座って聴いているような臨場感があった」という意見を多く頂戴した。どのような要因が重なってそのような感じを持つに至ったかは今後検証しなければならないが、工夫次第でより生演奏に近い臨場感を児童たちに提供できるとすれば大きな可能性を秘めていると考える。まずホールの定員を気にする必要がなくより多くの児童生徒が鑑賞できる（本公演も7回のうち2回はホール定員を超えた鑑賞者があった）。また地理的に劇場に行くことが難しい児童たちもより質の高い演奏を鑑賞することが可能となる。そして複数カメラによる演奏配信は、視覚的に大きなアドバンテージがある。その他、ホールへ出向く必要がなく慣れた教室で鑑賞できるのでリラックスし集中して聴いていたようだというコメントも聞かれた。まだまだ実験的な域を出ないが、多くの児童に楽しんでもらえたことは間違いなく、今後も県劇と協力しながら学びが深まる新しい音楽鑑賞の形を模索していきたい。



写真1 学校での鑑賞の様子



写真2 県劇ホールの様子

¹⁾ 「ケンゲキオンラインスクール ～音楽を知ろう聴こう」
『熊本県立劇場季刊誌まわいえ』Vol. 6, 2020. 9, pp.5-6.
http://www.kengeki.or.jp/kengeki/foyer/200912_foyer_no6.pdf
「劇場の新しいカタチ」『教育音楽』小学版、中学・高校版、
2020年11月号, 2020. 10, pp.1-3.

3. 教員養成大学における前期のオンライン授業報告と今後の課題—Zoom報告会—

野本 由紀夫 (玉川大学)

「東京にはプロ・オーケストラが多すぎるから、いくつか潰れたほうが良い」。「音楽なんて、なくたって生きていける」。

コロナ禍の最初期、全国一斉休校になった3月以降、ネットにはこのような言葉が見られた。緊急事態宣言で、あるプロオケは毎月7億円の損失が出る、と音楽文化に対するダメージの大きさが報道されても、音楽や演劇に事業継続のための税金投入することに対しては、世論は激しく非難した。

そのような圧倒的な空気の中、音楽科は「なくてはならない科目」だと反論できるのか。伝統文化を含む「音楽」を生業とする人たちが「生きていけない」と訴えているのに、音楽科教師が「これからも、生活から音楽はなくならないだろう」とノンキなことを言っている場合なのか。

このような危機感を抱いていたとき、上記標題にある Zoom 報告会のホストを務めないか、と誘われた。筆者はすでに、本年(2020年)6月14日に、深見友紀子氏(大東文化大学)の主催で、公立小学校を中心とした ICT (オンライン) 意見交換会にも参加していたため、大学編も深見氏にホストを依頼し、筆者はサブに徹して発表者集めをした。

新年度の開講時期が、大学によって最大1か月ずれていたため、前期終了前後の8月8日、3時間にわたって、教員養成系大学のオンライン授業の現状報告と今後の課題が Zoom で議論された。参加者は五十音順に伊野義博氏(新潟大学)、尾崎祐司氏(上越教育大学)、小林田鶴子氏(神戸女学院大学)、近藤真子氏(文教大学)、齊藤忠彦氏(信州大学)、清水宏美氏(玉川大学)、筆者(玉川大学)、深見氏、和田崇氏(東京音楽大学)、加えて水谷早紀氏(『教育音楽』編集部、記録)であった。

報告分野は、筆者のみが実技系の指揮法と座学の鑑賞教育理論などであったが、他の全員が音楽科指導法のオンライン実践例であった。すでに全国大会でも、実践例はいくつも発表されたので、ここでは個別に紹介しない。Zoom 報告会で共有された認識と課題は、次のとおり。

- ① オンラインでは、Zoom などによる「同時双方向型」の、いわゆる従来の対面型に近い授業形態と、事前収録による「異時オンデマンド型」の組み合わせが有効。大人数であっても、Zoom ライブ授業(学生もチャットなどで主体的に参加)→そのまま録画→大学の LMS (学修支援システム)へアップ→異時オンデマンド型の「繰り返し復習」が可能。副産物として、ライブ欠席者も授業録画を視聴すれば、出席扱いにできる。結果、出席率はほぼ 100%となる。
- ② オンラインでも、アクティブ・ラーニング型学修やクリエイティブ・ラーニングにより、学生たちは教員の想像を超えて、みずから工夫をして学修を深められる。学生の可能性を信じる。
- ③ 教員からの一方通行の授業が、学生には一番不評。フィードバックは絶対に必要。その分、教員側も負担増。また、学生のメンタル・ケアが、対面授業以上に必要である。
- ④ 対面でないと、授業実践のタクティクスを身に付けることは難しい。とりわけ、実技・実習系は、オンライン授業では限界がある。後期は、対面とオンラインの「混合型」が模索される。
- ⑤ 同様に、合唱・合奏は、現状の会議ソフトではほぼ無理である。「共に音楽する」体験、「生の音楽」こそが、音楽の本質的なあり方だと、再確認される。「生」に接する機会としてのアウトリーチ活動も重要。
- ⑥ 「音楽文化の継承・発展・創造」が危機にさらされている。オンライン下でも「教員・学生・社会」をどう結び付けるかが、大学の課題である。

授業の形態がオンラインか対面かは、極論すれば教育手段の問題にすぎない。一番大事なことは「船」そのものを沈めないことだ。音楽文化の息の根を止めてはならない。

5 会員の声

1. 第51回大会に参加して

今井 由喜（渋谷区立上原中学校）

今回、プロジェクト研究「小・中学校の連携を踏まえた音楽科授業の実践研究Ⅰ」に参加させていただき、大変感謝しています。研究班による発話行動視線分析により、子どもがいかに学んでいくかをつぶさに複層的に知ることができ、研究—教育の協力には大きな価値があると感じました。

また、他の授業者の実践を詳細に知ることを通して、「こうすればよい授業ができる」というような方程式はないということを再確認しました。よい授業をつくるには、子どもが無理なく学習できるような仕掛けを散りばめておいて、子どもの様子に応じて音楽のよさを味わえるような授業を展開していくしかありません。ですから、授業力を上げるには、よい授業をたくさん見ることによるディープラーニングが一番というわけです。

とすれば、今後の研究—教育の有益な連携の一つは、授業アーカイブをつくることです。できれば「なぜその授業が成功したのか」の分析付きで。そんな夢が膨らむ大会でした。

鹿倉 由衣（Conductive Music CIC）

初のオンライン開催ということで、カナリア諸島テネリフェ島にて現地時間午前1時より参加し、口頭発表をいたしました。コロナウイルスの流行によって、急速に、また否応無しに進められたデジタル化で、世界中の教育現場は多くの困難に直面しました。一方で、今回のように日本での学会参加が地球の反対側からでも可能となったことは非常に有意義なことだと思います。学校でのICTの活用が推進される中で、切実にICTが教育現場に「必要」になったのは初めてのことでないかと思います。我々は、幼稚園から大学院生を対象に、創造的な活動を通して複雑な物事を学ぶSTEAM教育を実施しています。日本の学校現場でも、音楽科は各教科の結び目として可能性を生かせると思います。ICTを使うことを目的とするのではなく、それをういて創造することによって、目まぐるしく変化する世界に対応する、有機的な知識や技能として身につけてゆけるのではないのでしょうか。誰もがオンラインに集った今回は、音楽教育の未来に向けて、一歩進んだ大会になったと感じております。

長山 弘（広島大学大学院生）

私は、本大会では、自身の研究発表に加え、大会実行委員の一人として、主に大会専用ホームページの制作と運用に携わりました。

研究発表においては、私にとってZoomを使った初めての口頭発表となりました。はたしてZoomをとおして「音」を扱った発表がうまくできるだろうか、といった不安がありましたが、「発表者マニュアル」を参考にして、無事に終えることができました。そして、ホームページの制作と運用においては、大会参加者にとって分かりやすい内容になるように、大会実行委員の皆様と連携をしながら進めていきました。その結果、無事に大会を終了することができ、嬉しい気持ちで一杯です。

今大会は対面での挨拶などができないといった寂しさもありましたが、一方で、どこからでも参加できるというインターネットの利点を活かすこともできました。来年度の大会では、以前のように対面での実施になることを願っていますが、今回得られた知見もまた、どこかで活かしたいと思います。

今回の第 51 回大会では、オンライン参加ということで通信環境や機器のトラブル等、当日まで気にしておりましたが大会スタッフの方や司会の先生方のご尽力により普段通りの発表をさせていただくことができました。心より感謝申し上げます。またコロナ渦において、先が見え難い状況の中、自身の研究を発表させていただくことの有難さを感じた一瞬でした。私は現在、琉球大学でピアノを中心とした実技系科目を担当しながら、同時に音楽を幅広く学ぶ学問である「リベラル・アーツ」の研究も行っています。作品を通して学べることは実に様々あり、視点を変えると音色の変化だけでなく、思考力、判断力までも養うことができます。多様性がより重要視される時代だからこそ、ピアノを通して「生きる力」を育成できないか、研究し続けたいと思っています。今回の発表でも、その一部をお話しさせていただきましたが、来年の大会もオンラインで参加させていただける場があると、発表者、参加者ともに機会を広げられるのではと思いました。次回も楽しみにしております。

山本 耕平 (大阪府立交野支援学校四條畷校)

今回の発表は昨年の『音楽教育学』に掲載された論文を執筆する中で得られた研究テーマであった。普段は支援学校で働きながら研究を続ける私にとって、全国大会というのは一つの目標であり、この大会をめざして研究を(ひとまず)アウトプットできる段階にまでブラッシュアップしていくという流れがここ何年か続いている。今後もできる限りこのサイクルで研究を進めていきたい。

音楽教育学会での発表は今回で四度目となった。今年オンラインでの全国大会であったが、自分が発表する中で感じたことは、意外にも「いつもの発表と変わらない」ということである。発表前の緊張も、質疑応答中に感じる幾ばくかの不安も、発表後のリラックスした雰囲気のもとで行われる雑談も、これまでの発表と変わらなかったのが率直な感想である。しかし、初のオンライン開催にも関わらずスムーズな運営がなされていた背景には、実行委員の方々や当日の司会や運営に携わったスタッフの方達による、私の想像も及ばないような熱意と周到な事前準備があったと推察する。今年もこれまでと変わらず発表の場を与えていただけたことに対し、この場を借りて感謝申し上げたい。



写真3 オンライン本部の様子



写真4 分科会担当中の学生スタッフ

2. 子供たちの声に勇気付けられて

佐藤 恭子（石巻市立桃生小学校）

2018年4月から2020年3月の2年間、県教委からの現職派遣により、宮城教育大学教職大学院で学ぶ機会を得ました。昨年、東京藝術大学を会場に行われた第50回大会では、音楽科教育に関わるご発表だけでなく、保育から生涯教育まで、幅広く「音楽教育」について考え、実践を積まれている方々に直接お会いすることができました。音楽教育とは、より多くの方々と音楽のすばらしさを共有していく営みであることを改めて実感しました。そして、この4月からの現場復帰をととても待ち遠しく感じていた2月末、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、全国一斉休校が行われることとなりました。

実は、その決定がなされた翌日の2月29日には、本学会の東北例会が予定されていました。附属小学校と連携し、チームで取り組んだ「聴こえる美術館」の授業開発・実践について、授業者である院生の視点から分析したものでした。直接会員の皆様にお伝えできなかったことは残念でしたが、地区担当理事をはじめとする先生方のご尽力により、Web上での発表を通して皆様からご意見等をいただくことができました。

4月からは現場に復帰し、子供たちと学級担任ではない立場で、音楽の授業に関わることとなりました。宮城県石巻市は、歌を歌うことのできない状況下にあった4月8日から学校を一旦再開したものの、緊急事態宣言を受け、4月15日から再び臨時休業に入ったため、それから6月1日まで、3月19日の卒業式以来、校内に子供たちの声が響くことのない毎日が続いたのです。

2011年3月の東日本大震災。本校は市の内陸部に位置するため、沿岸部の方々が身を寄せる避難所となったと、着任した際に聞きました。その時ですら、4月21日には学校を再開したという記録が残っていますので、約3ヶ月という長期間、子供たちの声の聞こえない学校であったことはこれまでなかったわけです。学校再開に向け、職員室で先生方と音楽の授業とウイルスの感染拡大防止の両立について確認し、本校も例に漏れず、「教室内の換気の徹底」「児童間の距離の保持」「マスクの着用」「鍵盤ハーモニカとリコーダーの指導の暫時見合わせ」等を行うこととしました。

私が担当する5年音楽の授業開きは、6月中旬によく行うことができました。7月上旬に野外合宿を控えており、キャンプファイヤーで歌う歌の練習にも取り組みました。「小さな声でね」と声を掛けるのですが、マスクの中で伸びやかな声を響かせた子供たち。これまでの4年間の音楽の学習を通して、表現することの喜びを味わってきたということが、ひしひしと伝わってきました。また、10月10日には、例年より縮小して運動会を開催しました。マスク着用の上ではありますが、当日を迎えるまで、楽しそうに歌う運動会の歌が各教室に響き渡る様子は、子供たちの表現に対する意欲を、私たち教員がどのように引き出すことができるのかという問いを投げ掛けるものでもありました。

今まで当たり前だと思っていた、校内に響く子供たちの声。子供たち自身も、思うように歌うことのできない状況を経験し、「歌いたい」「表現したい」という意欲を再確認しているように見えます。

このような状況下で、教育とは、「子供自身の意欲を高めることそのもの」であると改めて実感しています。今までより限定された教育環境にありますが、児童の表現意欲を高めるための音楽の指導の在り方について、大学院にて学んだ理論と実践の往還の視点を大切に、これからも研鑽を重ねていきたいと思っております。

6 会員の新刊・近刊等紹介

- ★田崎 教子 著『音楽的活動における保育者の発信的・応答的能力の向上—クリニカル・ミュージシャンシップ援用の可能性』 風間書房 2019/12/20 A5判・302頁 ISBN:978-4759923117 [本体7,500円+税]
本書は、保育者の発信的・応答的能力を音楽的側面から検討した。創造的音楽療法のクリニカルミュージシャンシップを援用し、保育者が子どもと音楽にどう関わるべきかを再考したものである。
- ★津田 正之/小川 公子 著『小学校学習指導要領対応「我が国の音楽」の魅力を実感できるワクワク音楽の授業 実践動画視聴QRコード付』 学事出版 2020/5/12 B5判・75頁 ISBN:978-4-7619-2623-3 [本体2,200円+税]
「我が国の音楽」の授業理論、北九州市立日明小学校の7つの授業実践等を掲載。本時の実践動画が付いており、我が国の音楽の魅力を実感できる授業について、分かりやすく学ぶことができる。
- ★広瀬 俊雄/遠藤 孝夫/池内 耕作/広瀬 綾子 編『シュタイナー教育100年—80カ国の人々を魅了する教育の宝庫』 昭和堂 2020/8/20 A5判・260頁 ISBN:978-4-8122-1931-7 [本体2,500円+税]
シュタイナー学校の創設100年を記念して出版された待望の書。魂を育む音楽・弦楽器作りの教育、幼児教育、道徳教育、ICT教育、地理や理科教育、世界のシュタイナー学校の動向、公的権利の獲得、8年間一貫担任など、目を見張る論稿が満載。
- ★原口 直 著『YouTubeで授業/学級経営やってみた!』 東洋館出版社 2020/8/13 A5判・144頁 ISBN:978-4491042619 [本体1,500円+税]
YouTubeは音楽の鑑賞など授業での視聴だけでなく、学級だよりのWeb配信など保護者とつながるツールとして学校現場でも広がりつつある。GIGA スクール構想・著作権・実践にこだわった内容である。
- ★石上 則子 編著『歌唱共通教材から伝統音楽、各分野の教材まで みんなで深める!—小学校音楽あそび70』 (音楽授業サポートBOOKS) 明治図書出版 2020/9/11 A5判・152頁 ISBN:978-4-18-318029-2 [本体2,060円+税]
2017年初版『準備らくらく!アイデア満載!—小学校音楽あそび70』(明治図書出版)のパート2として刊行。普段何気なく扱っている教材を見直し、いつでもどこでも楽しみながら音楽の学びを深めるアイデアを紹介。
- ★今村 行道/津田 正之 編著『新学習指導要領対応 小学校音楽イチ押し授業モデル』低学年, 中学年, 高学年の全3冊 明治図書出版 2020/11/6 B5判・144頁 ISBN:(低)978-4-18-351115-7, (中)978-4-18-351219-2, (高)978-4-18-351313-7 [本体2,200円+税]
新学習指導要領の目標や内容、学習評価の考え方を踏まえた授業づくりの理論と実践について学ぶことができる。編者による解説と各巻20の授業モデル(歌唱, 器楽, 音楽づくり, 鑑賞)を掲載。

7 報告

1. 2020年度 日本音楽教育学会 総会

日時：2020年10月17日（土）16:50～17:50

場所：オンライン開催（Zoom）

開会に先立ち、木村充子事務局長より出席者115名、委任状246通、合計361名であることが報告された。会則第13条に基づき、会員総数1,596名の5分の1の定足数（320名）を満たしていることにより、総会の成立が確認された。

1. 開会の辞 本多佐保美副会長

2. 会長挨拶 今川恭子会長

3. 議長選出 伊野義博会員（新潟大学）が選出された。

4. 審議事項

(1) 2019年度会計報告（島崎篤子 前会計担当理事）・監査報告（杉江淑子 前会計監事）

大会プログラム掲載資料に基づき、2019年度一般会計報告、その他会計について、会計報告が行われた。監査の結果、間違いのないことが報告され、承認された。【資料1】

I 一般会計			II 研究出版基金		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
前年度繰越金	5,929,098	5,929,098	大会運営費	2,150,000	2,383,251
正会員会費*	10,976,000	10,493,000	大会実行役員会経費	700,000	700,000
(次年度繰越)			事務経費	1,250,000	1,463,189
学生会員会費	16,000	16,000	アソシエイト経費	200,000	200,062
団体会員会費	40,000	40,000	学会誌費	2,500,000	1,939,459
賛助会員会費	300,000	300,000	経費見直し経費	1,650,000	1,318,878
学会誌売上金	300,000	605,516	経理システム経費	450,000	622,484
未収代	552,292		ニュースレター費	350,000	320,680
経路収入		51,816	例会運営費	640,000	657,254
大会参加費	1,400,000	2,090,900	通信・郵送費	1,250,000	1,215,332
その他	20,000	1,058,232	会簿費	20,000	1,700
大会実行役員会経費		291,696	旅費・交通費	1,700,000	1,532,820
雑収入		80	謝辞費	20,000	0
			事務局費	4,804,400	4,502,225
			事務料	450,000	422,012
			通信費	1,800,000	1,220,880
			人件費	2,000,000	2,235,424
			事務局員経費	54,400	83,699
			分団会	235,000	290,000
			選定積立金	200,000	230,000
			ゼミナール・ワークショップ費	130,000	130,000
			国際交流基金	1,301,000	1,301,000
			研究出版基金	100,000	100,000
			学会基金	150,000	150,000
			予備費	3,270,618	348,000
			小計	18,981,098	15,022,721
			次年度繰越金		5,419,725
計	18,981,098	20,442,446	計	18,981,098	20,442,446

【その他会計報告】

収入	2018年度までの積立金	2019年度積立金	利息	
収入	2018年度までの積立金	2019年度積立金	利息	
支出	50周年記念出版イベントの準備	50年の歩み		
収入	2018年度までの積立金	2019年度積立金	利息	
支出	学生会員会費管理システム更新費	経路印刷		
収入	2018年度までの積立金	2019年度積立金	利息	
支出	ワークショップ補助金			
収入	2018年度までの積立金	2019年度積立金	利息	
支出	国際交流促進事業費(アソシエイト研究と共催)			
収入	2018年度までの積立金	2019年度積立金	利息	
支出	第24期選挙			

◎ 2019年度決算を上記の通り報告いたします。

2020年4月18日 会計担当 島崎 篤子
寺田 真由

◎ 上記の通り間違いないことを監査いたしました。

2020年4月18日 会計監事 木村 充子
杉江 淑子

(2) 2020年度事業計画（木村）及び補正予算（杉江会計担当理事）

総会資料に基づき、2020年度事業計画の日付確定が報告され、承認された。【資料2】

2020年	4月18日 4月25日 4月25日 5月18日 6月15日 6月30日 7月25日 8月2日 8月18日 8月31日 8月31日 10月3日 10月5日 10月11日 10月16日 10月17日 12月26-27日 12月下旬 12月下旬	2019年度会計監査会（事務局） 2020年度第1回常任理事・理事会（Web会議） 2020年度第1回編集委員会（Web会議） ニュースレター第80号発行 第50回大会発表申込・要旨締切 第51回大会研究発表受理通知 2020年度第2回常任理事会（Web会議） 2020年度第2回編集委員会（Web会議） ニュースレター第81号発行 『音楽教育学』第50巻第1号発行 第51回大会プログラム発送 第51回大会参加申込締切 第51回大会参加費振込締切 2020年度第3回編集委員会（Web会議） 2020年度第3回常任理事会、第2回理事会（Web会議） 第51回大会・総会（オンライン開催） 第16回音楽教育ゼミナール（オンラインゼミナール） ニュースレター第82号発行 『音楽教育実践ジャーナル』vol.18発行
2021年	2月中旬 2月中旬 3月下旬 3月下旬 3月末日	2020年度第4回常任理事会 2020年度第4回編集委員会 ニュースレター第83号発行 『音楽教育学』第50巻第2号発行 2020年度会計決算

2020年度補正予算案について説明があり、原案の通り承認された。【資料3】

2020年度補正予算(案)			
I 一般会計		<2020年度その他会計(案)>	
収入		II 研究出版基金	
科目		収入	
前年度繰越見込金	5,419,725	2019年度までの積立金	¥3,002,009
正会員会費※1	11,081,000	2020年度積立金	¥50,000
	7,000×正会員実数1,583※2	支出	
学生会員会費	12,000	APSMER関連	¥300,000
団体会員会費	40,000		
賛助会員会費	300,000	III 学会基金	¥1,650,338
学会誌売上金	300,000	収入	
本誌代		2019年度までの積立金	¥1,850,338
送料収入		2020年度積立金	¥100,000
大会参加費	550,000	支出	
その他	20,000	電子投稿システム費	¥300,000
大会実行委員会資金		学会賞	¥0
例会運営費資金			
雑収入		IV ゼミナール・ワークショップ基金	¥1,230,820
		収入	
		2019年度までの積立金	¥1,230,820
		2020年度積立金	¥150,000
		支出	
		ゼミナール補助金	¥150,000
		V 国際交流基金	¥1,298,163
		収入	
		2019年度までの積立金	¥1,898,163
		2020年度積立金	¥750,000
		支出	
		韓国学会会長招聘等	¥100,000
		国際交流促進事業費	¥50,000
		APSMER大会準備金	¥1,200,000
		VI 選挙積立金	¥438,567
		収入	
		2019年度までの積立金	¥188,567
		2020年度積立金	¥250,000
計	17,722,725	計	17,722,725

※1 特別会員3名を含む。

※2 正会員実数は7月25日現在、自然退会者抜き。

(3) 2021 年度事業計画 (木村)

総会資料に基づき、選挙の年であること、APSMER2021 TOKYO が9月に行われることに鑑み、ワークショップの開催時期が3月に変更されることの説明があり、承認された。【資料4】

2021 年	4月中旬	2020 年度会計監査会
	4月下旬	2021 年度第1 回常任理事・理事会
	4月下旬	2021 年度第1 回編集委員会
	5月中旬	ニュースレター第 84 号発行
	6月中旬	第 52 回大会研究発表・共同企画申込・要旨締切
	6月中旬	第 25 期会長・理事選挙関係書類発送
	6月下旬	第 52 回大会研究発表受理通知
	7月上旬	第 25 期会長・理事選挙開票 (事務局)
	7月下旬	2021 年度第2 回常任理事会
	8月上旬	2021 年度第2 回編集委員会
	8月中旬	ニュースレター 第 85 号発行
	8月下旬	『音楽教育学』第 51 巻第1 号発行
	8月下旬	第 52 回大会プログラム発送
	9月 18-19 日	第 13 回 APSMER 東京大会
	10月上旬	第 51 回大会参加申込・参加費振込締切
	10月	2021 年度第3 回常任理事会・第2 回理事会 (京都教育大学)
	10月	2021 年度第3 回編集委員会
	10月	第 52 回大会・総会 (京都教育大学)
	12月下旬	ニュースレター第 86 号発行
	12月下旬	『音楽教育実践ジャーナル』vol.19 発行
2022 年	2月中旬	2021 年度第4 回編集委員会
	2月中旬	2021 年度第4 回常任理事会
	3月	第 10 回ワークショップ
	3月下旬	ニュースレター第 87 号発行
	3月下旬	『音楽教育学』第 51 巻第2 号発行
	3月末日	2021 年度会計決算

(4) 2021 年度予算 (杉江)

2021 年度予算案について説明があり、原案の通り承認された。【資料5】

I 一般会計		2021年度予算(案)		II 研究出版基金	
収入		支出		収入	
科目		科目		2020年度までの積立金	
前年度繰越見込金	3,348,325	大会運営費	2,280,000	2021年度積立金	¥2,772,009 ①
正会員会費※1	11,081,000	大会実行委員会経費	793,000	支出	
		事務局経費	1,282,000	APSMER関連	¥200,000 ¥200,000 ②
学生会員会費	7,000 × 正会員実数1,583※2	プロシナ研究	200,000		
団体会員会費	12,000	学会誌費	2,500,000		
賛助会員会費	40,000	音楽教育学発行費	1,680,000		
学生会誌売上金	300,000	実践ジャーナル発行費	850,000		
		ニュースレター費	350,000		
本経代		例会運営費	840,000		
経理収入		通信・郵送費	1,250,000		
大会参加費	1,400,000	会議費	20,000		
その他	20,000	旅費・交通費	1,500,000		
大会実行委員会返金		HP管理費	125,000		
例會運営費返金		事務局費	4,804,400		
繰入金		事務費	450,000		
		人件費	2,700,000		
		事務局運営費	1,400,000		
		事務局員保険費	54,400		
		分担金	260,000		
		選挙積立金	170,000		
		ゼミナール・ワークショップ基金	50,000		
		国際交流基金	50,000		
		研究出版基金	20,000		
		学会基金	50,000		
		予備費	2,631,925		
計	16,501,325	計	16,501,325		

III 学会基金	
収入	支出
2020年度までの積立金	¥1,650,338 ①
2021年度積立金	¥50,000
学会賞	¥50,000 ②

IV ゼミナール・ワークショップ基金	
収入	支出
2020年度までの積立金	¥1,130,820 ①
2021年度積立金	¥50,000
ゼミナール・ワークショップ補助金	¥150,000 ②

V 国際交流基金	
収入	支出
2020年度までの積立金	¥798,163 ①
2021年度積立金	¥1,298,163
国際交流促進事業費	¥50,000
APSMER大会関連	¥500,000 ②

VI 選挙積立金	
収入	支出
2020年度までの積立金	¥108,567 ①
2021年度積立金	¥438,567
第25期選挙	¥170,000 ②
	¥500,000 ②

※1 特別会員3名を含む。

※2 正会員実数は7月25日現在。自然退会者抜き。

(5) 理事の被選挙権に関わる細則改正について（嶋田由美総務担当理事）

前期の将来構想ワーキンググループによる、将来にわたり発展的で安定的な学会運営の基盤をつくることを目的とした、理事の被選挙権者についての検討を引継ぎ、今年度の常任理事会、理事会での検討に基づき、下記改正案の下線部分を付加することについて説明が行われ、承認された。

【資料6】新旧対照表（学会細則 第五章 役員の選挙に関する規則 第17条）

改正案	現行
理事の被選挙権は、改選年度の2年前の年度会費納入者が有する。 <u>ただし、通算して理事を8期つとめた会員は、被選挙権者となることができない。また、理事選挙が行われる年度内に満70歳以上になる会員は、被選挙権者であることを辞退することができる。</u>	理事の被選挙権は、改選年度の2年前の年度会費納入者が有する。

施行日 2020年10月17日

(6) 第52回大会について（今川）

第51回の当初予定地であった京都教育大学における第52回大会開催が提案され、承認された。京都教育大学の田中多佳子会員から、第52回大会開催を引き受けるにあたって挨拶が行われた。

(7) 第53回大会候補地について（今川）

関東地区で開催予定であることが報告され、承認された。

5. 報告事項

(1) 会務報告（木村）

総会資料に基づいて、2019年10月18日から2020年10月17日までの会務報告があった。

(2) 日本教育学会からの呼びかけへの対応について（今川）

日本学術会議第25期新規会員任命見送りに関わって、日本教育学会から本学会に、10月7日付の緊急声明（主に以下の2点）への賛同と、今後複数学会と連携していく可能性のある共同声明への参加についての検討の呼びかけが届いた。この件について、第3回常任理事会及び第2回理事会で検討し、学会長名で賛同することに決定したことが報告され、承認された。なお、今後この件に関連しては、理事会にご一任いただきたいとの要望があり、承認された。

1. 日本学術会議が去る8月31日付で推薦した会員候補者のうち、任命されていない6名の方について、任命見送りになった経緯および理由を十分に明らかにすること。
2. 上記6名の方の任命見送りを撤回して、すみやかに任命すること。

(3) 各委員会等から

・編集委員会（小川容子委員長）

第2・3回編集委員会のオンライン開催、『音楽教育実践ジャーナル』vol.18 通巻31号の発行予定（12月下旬）、『音楽教育実践ジャーナル』vol.19 通巻32号（2021年12月下旬発行）の特集テーマ「新型コロナウイルス問題と音楽教育」について報告された。また、12月1日からの電子投稿全面実施に向け、「ウェブサイトのトップ画面」「『音楽教育学』投稿規定」「『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定」「執筆の手引き」などの検討と修正を行っている。全面実施後に微細な変更が必要になる可能性もあるので、2021年度の理事会で修正事項について報告・検討し、総会で報告予定である。また、12月1日以降、投稿をされる方は、学会のウェブサイトを確認の上で投稿いただきたい旨、呼びかけがあった。

・国際交流委員会・APSMER 2021 TOKYO 大会実行委員会（水戸博道委員長）

2021年9月のAPSMER東京大会に向けて、APSMERの理事会とも協議をしながら対面開催の可能性を探りながら準備中であること、現在、ウェブサイトの速報版が完成しており、学会とのリンクも近日中にできる予定であること、ISMEのウェブサイトにはすでにリンクがあることなどが報告された。

・広報委員会（榎藤敦子委員長）

マイページの整備に伴い、ニュースレターも年に2回はオンライン版、2回は紙媒体で届ける方向で、それぞれのよさを生かした編集をこれから検討していく予定であることが報告された。学会ウェブサイトには今まで通り個人情報を削除した上で掲載する。また、『音楽教育研究ハンドブック』が出版されて1年経過することから、ハンドブックの活用についての誌上情報交流を考えており、詳細についてはニュースレター第82号で案内予定であることが報告された（p.7参照）。

・選挙管理委員会（高木夏奈子委員長）

2021年度は会長と理事の選挙が行われるので、投票をお願いしたい旨、呼びかけがあった。

・音楽教育支援プロジェクトチーム（齊藤忠彦チームリーダー）

2020年5月に発足しウェブサイト立ち上げ、情報発信から行っていること、今後はアフターコロナを見据え、学会として何ができるかを考えていきたいとの報告があった。また、会員から情報提供について呼びかけがあった。

・音楽文献目録委員会（長野麻子委員）

今年度発行予定であった『音楽文献目録』第48号刊行の中止、今後の紙媒体での刊行も中止となった。2021年4月からの音楽文献目録Web版によるデータ公開・運用に向け準備中である。運用については、5団体（本学会を含む）からはすでに承認済みであり、助成団体（13団体）については承認の返事待ちである。文献検索データベースとして、2021年4月は、2019年度の修士論文・博士論文、2019年8月～2020年7月の母体、助成団体の紀要の文献データを中心とし、随時追加して過年度のものも含めた完全なWe化を目指す予定である。本学会の会員は無料で使用可能。9月29日にウェブサイトが開設された。以上、報告があった。

(4) 第16回音楽教育ゼミナールについて（今田匡彦実行委員長）

12月26、27日に「英語で研究を海外に発信しよう！」をオンライン開催。2021年のAPSMER東京大会を見据えて、講師6名で具体的な口頭発表や質疑応答の方法などについて取り上げる予定であることが報告された。すでに学会のウェブサイトのリンクより申込が可能、参加費は無料。

6. 議長解任

7. 閉会の辞 本多副会長

.....

2. 2020年度 第3回常任理事会

日時：2020年10月16日（金）12:00～13:00

場所：オンライン開催（Zoom）

出席者：今川、本多、木村、石上、小畑、榎藤、齊藤、佐野、嶋田（記録）、杉江、水戸

第2回理事会と重複しない審議事項を中心に審議・報告が行われた。

【審議事項】

1. 新入会員及び退会者について（木村）

7月25日以降、正会員の新入会19名、申し出退会3名があり、10月15日現在、正会員1,596名、学生会員1名、名誉会員2名、特別会員3名であることが報告され、承認された。

2. 総会議題の確認（木村）

議題を確認し、理事会へ諮ることが承認された。なお、会長より2021年度事業計画に関する資料の確認において、2021年9月にAPSMER東京大会を開催することに伴って、通常、夏季に行っているワークショップを2022年3月に延期する提案がなされ、承認された。

3. 2020年度補正予算、2021年度予算について（杉江）

7月開催の第2回常任理事会以降変更点はなく、このまま審議されることが確認された。

4. 第52回大会について（今川・杉江）

京都教育大学が大会校となり開催予定であることが報告され、承認された。日程は2021年10月16日（土）・17日（日）、あるいは23日（土）・24日（日）のいずれかで調整中。

5. 第53回大会候補地について（今川）

関東地区で開催予定であることが報告され、承認された。

6. 日本教育学会の呼びかけへの対応について（今川）

日本教育学会からの「日本学術会議会員任命拒否問題に関する日本教育学会の対応のご報告とお願い」文書による呼びかけに対し、この間、常任理事会で対応を審議してきた結果を理事会へMLで回して意見聴取を行った経緯が説明され、この件はこれらの審議を踏まえた提案として理事会で審議すること、及びその結果を総会に報告事項として出すことが提案され、承認された。

【報告事項】

すべて第2回理事会で報告されることとなった。

〈次回会議の予定〉 第4回常任理事会 2021年2月20日（土）10:00～（オンライン）

...

3. 2020年度 第2回理事会

日時：2020年10月16日（金）13:00～14:00

場所：オンライン開催（Zoom）

出席者：今川、本多、木村、石上、小川、小畑、加藤、国府、権藤、齊藤、笹野、佐野、嶋田、
新山王、杉江、津田（記録）、中嶋、尾藤、日吉、水戸、村尾

開会に先立ち、今川会長より、コロナ禍における学会運営への協力に対する謝意、第51回大会に300名を超える申込があったことなどの報告を含めて、挨拶があった。

【会務報告】〈2020年7月25日以降〉(木村)

- 8月2日 2020年度第2回編集委員会 (Web会議)
- 8月1日 ニュースレター第81号発行
- 8月31日 『音楽教育学』第50巻第1号・第51回大会プログラム 発行・発送
- 10月3日 第51回大会参加申込締切
- 10月5日 第51回大会参加費振込締切
- 10月11日 2020年度第3回編集委員会 (Web会議)
- 10月16日 2020年度第3回常任理事会, 第2回理事会 (Web会議)

【メール審議の報告】〈2020年7月25日以降〉

- ・電子投稿システムが9月1日より稼働開始となり、12月から電子投稿に一本化すること、9月1日よりマイページにて個人情報も含むニュースレターが閲覧可能になることが報告された。
- ・音楽文献目録委員会 (RILM 日本支部) より、2021年4月からのWeb版公開開始について承認を求める依頼があったことに対して、審議に基づき「承認するが、今後、分担金の見直しが必要な場合、理事会、総会での予算承認が必要になるため、見直しにすぐに対応できない。場合によっては、理事会・総会での承認を得られない可能性もある」と回答したことが報告された。
- ・理事の被選挙権の改正について、理事会MLで承認されたことが報告された。

【審議事項】

1. 新入会員及び退会者について (木村)

7月25日以降、正会員新入会19名、申し出退会3名があったことが報告され、承認された。

(2020年10月15日現在 正会員1,596名、学生会員1名、名誉会員2名、特別会員3名)

◆正会員 新入会員 (2020年7月25日 常任理事会報告以降)

個人情報保護のため削除しました

2. 総会議題の確認 (木村)

総会資料に基づき、総会議題を確認し承認された。

3. 2020年度補正予算, 2021年度予算について (杉江・国府)

オンラインでの大会開催等に伴い、見直した点などを含めて説明され、承認された。

4. 第52回大会について（今川）

京都教育大学で実施する予定であること、日程の候補について報告され、承認された。新型コロナウイルス感染症が収束しなかった場合の対応についても検討していること等が報告された。

5. 第53回大会候補地について（今川）

2022年度は関東地区で開催予定であることが報告され、承認された。

6. 日本教育学会の呼びかけへの対応について（今川）

会長提案を総会に報告することが提案され、承認された。

【報告事項】

1. 各委員会等報告

(1) 編集委員会（小川）

第2回、第3回の編集委員会の審議の結果が報告された。また、『音楽教育実践ジャーナル』vol.19 通巻32号の特集テーマ、『音楽教育実践ジャーナル』vol.18 通巻第31号を10月8日に入稿したことが報告された。2020年12月1日からの電子投稿の全面実施に伴い、来年度投稿規定の改正を行う予定である。なお、次回の委員会は、2021年2月中旬にオンラインで実施予定。

(2) 広報委員会（榎藤）

ニュースレター第82号（原稿締切11/12）の内容や進捗状況が報告された。「特集『音楽教育研究ハンドブック』の活用について」活用事例をお知らせいただきたい旨、コラムで広報する予定。

(3) 選挙管理委員会（高木→木村）

次年度の選挙に向けての準備について、報告を受けていることが伝えられた。

(4) 音楽教育支援プロジェクトチーム（齊藤）

新型コロナウイルス感染症対策「音楽教育に関する情報」を更新していること、情報の充実のために、海外情報に詳しい赤池美紀会員に加わっていただいたこと、これまでの取組の一端を、明日のプロジェクト研究で発表することが報告された。

(5) 第16回音楽教育ゼミナール（今田→木村）

第16回音楽教育ゼミナールが、12月26、27日にオンラインで開催予定のこと、その情報が学会ウェブサイト上にアップされたことが報告された。

(6) 国際交流委員会、APSMER 2021 TOKYO 大会実行委員会（水戸）

第13回APSMER 東京大会（2021年9月18～19日）のウェブサイトのリンクを、学会のホームページに掲載し閲覧できるようにしたこと、ISMEの本部にウェブサイトのリンクをお願いするとともに補助金の申請の手続きを進めていること、明治学院大学で開催予定だが、新型コロナウイルス感染症予防のために様々な対策を講じる必要があること、学会のホームページとリンクできるように、ウェブサイトの管理をお願いしている長山弘会員（広島大学院生）に実行委員会のメンバーに加ってもらうこと、などが報告された。

(7) 音楽文献目録委員会（長野→木村）

メール審議の報告にある通り。

2. 理事の被選挙権に関わる細則改正の審議結果について（嶋田・齊藤）

理事会MLの審議で承認され、総会で報告することが伝えられた。

8 事務局より

事務局長 木村 充子

1. 年度会費納入のお願い

年度会費未納の方は至急お支払いください。会費未納の場合、送付物の発送、学会誌への投稿、大会での発表等、学会活動に支障を来すことになります。2020年度会費は7,000円です。


2. 事務局について

新型コロナウイルスの影響拡大に鑑み、事務局に原則としてスタッフは出勤しておりません。ご用件はEメールにてお願いいたします。ただし、お返事までに数日かかることがあります。ご了承ください。

3. メールアドレス登録のお願い

学会業務全体の電子化に伴い、会員の皆さまと事務局との連絡方法を電話やFaxではなく、Eメールで行うよう移行しております。まだメールアドレスをご登録でない方は、至急、事務局宛にお知らせください。4ページでご案内しましたように、メールアドレスをご登録いただいていない会員は「マイページ」にアクセスしていただくことができませんので、ご注意ください。

ニュースレターでは「会員の声」「会員の最新刊・近刊等紹介」への皆様のご投稿をお待ちしております。書籍、CD、DVDなどのリリースの情報がありましたら、基本的な書籍情報、音源情報に加えて、「である調」90字程度の紹介文をお送りください。

投稿先アドレス  (半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

【編集後記】

新型コロナウイルス感染症が拡大し収束の兆しが見えない中、初めてオンラインで開催された10月17日の第51回大会は、会員の皆様が研究とともに各地の情報を共有し交流を深めることのできた画期的な大会であったと思います。その大会ニュースをはじめ、業務電子化等の重要な情報、会員の皆様からの貴重な報告等をまとめた第82号を届けいたします。引き続き広報委員会では、本誌が皆様の活動・情報交流の場となるよう取り組んで参ります。多くのご投稿をお待ちしております。

(菅 道子)

【日本音楽教育学会事務局】 ※新型コロナウイルスの影響拡大に鑑み、事務局開局の状況が不規則となる場合があります。

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206 Tel. & Fax.: 042-381-3562

E-mail: (半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26*郵便物は私書箱へ

開局日時：月・水・木 9:00 ~ 15:00 事務局員：亀山・若尾・宇田川・徳山